

当所図書の紹介

第50回技術図書(和・洋書)

(著 者 名)	(書 名)	(出 版 社)	(出版年月)
日本雪氷学会	日本雪氷学会秋季大会講演予稿集 平成元年度	日本雪氷学会	平成元年9月
地学団体研究会	地質あんない 道南の自然を歩く	北海道大学図書刊行会	1989年8月
芦田和男	黄河治水と開発	古今書院	平成元年5月
農業土木学会 北海道支部	第38回 農業土木学会北海道支部研究発表会講演要旨集	農業土木学会北海道支部	平成元年10月
建設省道路局	道路統計年報 1989年版	全国道路利用者会議	平成元年8月
農業土木学会将来ビジ ョン検討委員会 編	農業土木会選書 13 豊かで美しい国土・農村空間の創出	農業土木学会	平成元年9月
日本流体力学会 編	流体力学ハンドブック	丸善	平成元年8月
巽 友正	乱流現象の科学 その解明と制御	東京大学出版会	平成元年9月
R. W. CLOUGH ZHANG GUANGDOU	Earthquake Behviior of Archdmas-Proceedings of the China-UC Workshop, Beijing, Chaina, June 1987-	PERGAMON PRESS	1989年
S. Pietruszczak G. N. Pande	Numerical Models in Geomechanics Numog III	Elsevier Applied Science	1989年
M. Kwiecinski	Collapse Load Design of Slab-beam Systems	John Wikey & Sons	1989年
Andreas Vogel	Earthquake Prognostics-Hazard Assessment, Risk Evaluation and Damage Prevention-	Vieweg & Sohn	1988年
最新表面処理技術総覧 編集委員会	最新表面処理技術総覧	姉産業技術サービス センター	平成元年10月
谷 一郎	流体力学の進歩 境界層	丸善	昭和60年4月
谷 一郎	流体力学の進歩 乱流	丸善	平成元年4月
小竹 進, 土方邦夫	パソコンで解く熱と流れ	丸善	平成元年6月
日本リモートセンシング 学会出版委員会 編	パソコンによるリモートセンシングデータ解析	啓学出版	1989年7月
日本水産学会	水産学用語辞典	恒星社厚生閣	1989年4月
小峰崇城	ハイパーMS-DOS 3.3	コミネエージェンシー	1989年3月
宇田川一彦, 速水祥太郎	EMS・RAMディスク活用ハンドブック	技術評論社	平成元年6月
山形庫之助	使いこなすための「Multiplan 3.1」極意書	日刊工業新聞社	平成元年6月
矢沢宏行, 小高輝真	改訂 ATOK 7 活用ハンドブック	技術評論社	平成元年8月
清水和文			
本江 渉, 本郷 茂	MS-DOS ユーザのためのUNIX攻略法	日刊工業新聞社	1989年2月
南 広志	PIEXE基本操作入門	技術評論社	平成元年7月
ChenYong, Kam- ling Tsoi, ChenFeibi, 他	The Great Tangshan Earhquake of 1976	Pergamon Press	1988年
ACI Committee 306	Cold Weather Concreting (ACI306R-88)	ACI	1989年1月
寺野寿郎, 浅居喜代治 菅野道夫	応用ファジィシステム入門	オーム社	1989年1月
農業土木学会 北海道支部	農業土木学会北海道支部研修会テキスト 第21回支部研修会 圃場・土壌の管理	農業土木学会 北海道支部	平成元年11月
杉山 昇	新編 土木施工法	鹿島出版会	平成元年4月
山崎 脩	デザイン発見 エジプトの石	京都書院	1989年
地下空間利用 研究グループ	地下都市 シオ・フロントの挑戦	清文社	1989年8月
相原幸一	テムズ河 ーその歴史と文化ー	研究社出版	1989年7月
白澤照雄	リニア中央新幹線 ー産業界を直撃するその経 済効果ー	教育社	1989年8月

(著 者 名)	(書 名)	(出 版 社)	(出版年月)
上田誠也	プレート・テクトニクス	岩波書店	1989年 9 月
長山泰久	人間と交通社会 (住友海上福祉財団交通安全シリーズ) ー運転の心理と文化的背景	幻想社	1989年 7 月
岡島秀夫	土の構造と機能 (自然と科学技術シリーズ) ー複雑系をどうとらえるかー	農山漁村文化協会	1989年 6 月
千賀裕太郎	水資源のソフトサイエンス	鹿島出版会	1989年10月
北海道土木部 監修 日本気象協会 編集	北海道の大雨資料 第8編のI (記録編)	北海道土木協会	平成元年 7 月
北海道土木部 監修 日本気象協会 編集	北海道の大雨資料 第8編のII (確立雨量編)	北海道土木協会	平成元年 7 月
北海道土木部 監修 日本気象協会 編集	北海道の大雨資料 第8編のIII (欠測一覧表)	北海道土木協会	平成元年 7 月
土質工学会	第34回土質工学シンポジウム(創立40周年記念) 発表論文集 ー21世紀の土質工学を考えるー	土質工学会	平成元年10月
Japan Society of Civil Engineers	Civil Engineering in Japan 1988	Japan Society of Civil Engineers	1988年

当研究所図書室利用者のため、入手図書の紹介については、本紙1982年 8 月No.351に定期技術雑誌として紹介したのを初めに、その後隔月ごとに紹介を重ね、前回 (1990年 8 月 No.447) までで49回を数えております。

(扱 企画調整課情報管理係)

サ ロ ン

土 木 美

1988年 4 月 10 日、本州四国連絡橋、児島～坂出ルートが開業。このとき、マスコミの多くは「建築美」と書いた。一般大衆の大半は、建築屋が橋を造っていると思ったに違いない。北大の某名誉教授はマスコミに厳重な抗議をしたという。

土木構造物の多くは、従来、「美」を意識しない。盛土、杭、トンネル、ダム…。これらに「美」を考えたってどうにもならん。「美」を意識したデザインは、人間の目に触れるものに対して行われる。橋梁は数少ない人間の目に触れる土木構造物だ。だが、橋梁の設計計算方法は習ったが、橋のデザインは教えてもらっていない。だいたい大学の土木のカリキュラムにデザインなどというものが入っていない。土木構造物は、その機能を満足すれば良いのであって、見たくれはそれほど重視しない。機能性を追求した結果として、タマタマ美しいものが出来上がるくらいのものだ。

なんとか走れる道路、とりあえず壊れない堤防、雨風をしのぐ住宅、というナショナルミニマムの時代から、快適に走れる道路、自然の風致にあった堤防、潤いの居住空間、という高度インフラ整備の時代となった。単に作れば良い時代から、ゆとりある社会を構成するために何が必要かを考える時代になった。道路に木が植えられ、橋にテラスが設けられ、擁壁に壁画が描かれ、堤防に階段がつき、…という具合だ。となると、土木屋も美的感覚を養わねばならない時代がきた。

だけど、美的感覚は養うにはどうしたら良いのだ。有名な絵画を見る、日本舞踊を習う、生け花を習う、ゲイジツの森に行く、美人コンテストに行く…、ってなことをしたってダメだろうナー。土木屋に美的感覚を期待したって無理かナー。

「建築美」はあっても「土木美」なんて確かに聞いたことがない。だけど、いずれ室蘭に白鳥大橋が完成した時、やっぱり建築美といわれるのはシャクだから、今から、マスコミ関係にお触れを出しておいたほうが良くはないか。あれは「土木美」だって。

(記 能登繁幸)